

陸前高田発

けんこうフェスティバル



震災後の運動場の減少による日頃の「運動不足」を解消してもらおうと、陸前高田市でニュースポーツに挑戦する催しが開かれました。この「けんこうフェスティバル」は市内のNPO「総合型りくぜんたかた」が開いたもので、多くの住民が参加しました。参加者は「輪投げ」や「ミニボウリング」など簡単な用具を使い手軽にチャレンジできるニュースポーツを体験しながら、心地よい汗を流していました。(6/18 ニュースエコー)

山田発

キリングroupから支援金



東日本大震災で大きな被害を受けた山田町の水産業復興のため、大手飲料メーカーキリングroupが、総額3070万円の支援金を贈りました。震災後、キリングroupでは被災地の地場産業や子供たちの心身のサポートを柱に、3年間で総額60億円の支援を継続して行っています。支援を受けた山田町内のグループでは、町内・17事業者が連携し、地域の新商品開発や販路拡大などに支援金を活用する事にしています。(6/19 ニュースエコー)

陸前高田発

「復興モデル住宅」完成

気仙大工の伝統技術を生かした復興モデル住宅が陸前高田市の竹駒町に完成しました。モデル住宅は気仙大工の組合が三井物産の資金援助を受けて建てたもので、地元の気仙杉がふんだんに使われた板張りが特徴です。また白壁には牡蠣の殻を粉にして塗りこみ湿気を防ぐなど天然素材にこだわった建物です。復興モデル住宅は900万円台から販売される予定です。(6/20 ニュースエコー)



釜石発

復興へ共同宣言



釜石市の復興まちづくりに向け、スイスに本拠を置く世界有数のユニバーサルバンクUBS、そして地域のコミュニティ作りを支援するRCF復興支援チームが釜石市とともに共同宣言を行いました。今後、「震災からの復興」そして地域のコミュニティ作りなど「地域課題の解決」に向け、手を携えて釜石のまちづくりに取り組んでいくことに誓い合いました。(6/23 ニュースエコー)

「震災からの復興」そして地域のコミュニティ作りなど「地域課題の解決」に向け、手を携えて釜石のまちづくりに取り組んでいくことに誓い合いました。(6/23 ニュースエコー)

大船渡発

アワビの稚貝出荷



大船渡市で震災後初めてとなる県内産のアワビの稚貝の出荷が始まりました。

出荷を行ったのは大船渡市の県栽培漁業協会です。津波で全壊した施設は去年9月に復旧し、稚貝生産を再開していました。第一弾として2.5センチ程に育った県産の18万3900個を出荷しました。出荷作業は8月一杯まで続き、県内各漁協に向けて約150万個の出荷を行う予定です。(6/23 ニュースエコー)

陸前高田発

さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)

今週は陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、7月に出荷する広田湾産の「エゾイシカゲガイ」について伝えてくれました。これはトリ貝の仲間濃厚なうまみを持つ高級な貝です。平成8年から養殖を始め、東京築地や盛岡市場、市内のすし店などに卸していました。震災により養殖設備や作業場などが流失しましたが、広田湾漁協気仙支所の生産者5名が震災の翌年から種付けをし、2年半かけて育てたものです。生産者の皆さんは「この貝を見かけたらぜひ一度食べてみて下さい」と話していました。(6/25)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122